

2年目のリモートセンシング

山田錦生産者11名で17haを撮影

春のGPS可変基肥に続きGPS可変追肥 3名約7haに実施

生産者通信

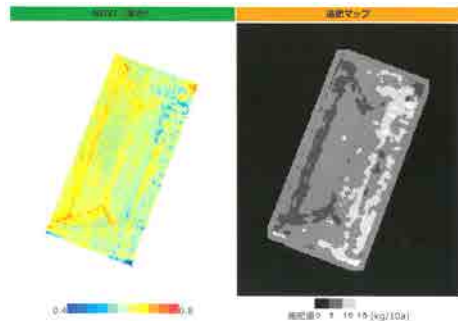
NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



連日の猛暑に加え水不足で管理が大変だと推察されます。シラタ、同割れの発生が予想されます。一日も早い降雨を願います。

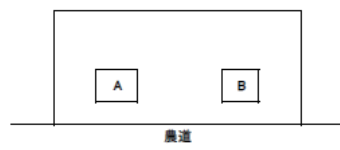
○リモートセンシング

7月28日(土)に、圃場の見える化、そして、そのデータを活用して、コストダウンと収量増加を目指す。



基礎となるドローンによるリモートセンシングが2年目を迎えました。見附市の岩渕会長の圃場に生産者と長岡高専の床井准教授、専攻科の学生、三菱ケミカル(株)の研究員の方も視察参加。38度を超える気温の中で行いました。また、山形大学の藤井教授が昨年リモートセンシングをした圃場を調査(下記表)。

藤井教授による生育調査結果



調査結果は下記の通りになりました。

A	草丈	茎数	葉色
1	81	25	30.1
2	77	19	40.2
3	78	26	31.1
4	75	23	27.8
5	79	20	31
6	80	29	34
7	80	26	30.6
8	80	24	33.5
9	80	21	32.6
10	76	18	30.7
平均	78.6	23.1	32.2

B	草丈	茎数	葉色
1	80	27	30.1
2	82	19	30.7
3	80	27	28.2
4	78	24	33
5	80	32	28.9
6	82	24	32.1
7	78	10	34.5
8	79	28	34.5
9	83	18	33
10	80	16	35.1
平均	80.2	22.5	32.0

葉色	N	N-1
1	31.5	30.1
2	32.4	30.7
3	30	28.2
4	30.7	33
5	30.9	34.5
6	29.9	34.5
平均	30.9	31.8

○ラジヘリ可変追肥
の結果を基に、反あたりの銀泉を6.02kgの散布量を、山形大学の藤井教授が算出。ラジヘリで3生産者で7.25haを散布しました。この散布により田んぼの中のバラツキが解消する予定です。



コメント

- 平成30年の調査日は7月28日、平成29年の調査日7月22日より、6日遅れている。平成29年のデータを今年の調査日に移動補正すると(試算)、草丈78cm、茎数23~24本/1株、葉色35~37になる。平成30年度と比較すると草丈80cm(平成29年度と同程度)、茎数は23本(平成29年度と同程度)、葉色は32で、平成29年度の35~37より淡い。
- 特に、今年の稲の上から数えて、4枚目の葉先の葉色が低下している。5枚目は葉身の半分程度枯れてきている。
⇒7月の中旬、高温で経過しているため、昨年よりも稲の消耗している。上から数えて4枚目の葉先の葉色が低下しているのは、それよりも上(特に最上位葉)に窒素を転流していることを示している。